

災害後にペットと過ごす注意点

自宅が危険な場合や避難指示が出ている場合はペットと避難場所に同行避難します。また、避難所での対応については、災害の規模や収容施設の大きさ、被災者の数などにより様々です。安全な状態であれば、避難所に行かずに自宅にとどまるという選択肢もあります。状況に応じていろいろなシーンが想定されますので、自分とペットの安全を優先して選ぶようにしましょう。

避難場所…緊急で一時的に避難する場所 避難所…災害等により自宅に戻れない場合等において一定期間避難生活をする場所

避難所で生活する

避難所では人とペットは別の場所で生活し、ペットの世話は飼い主が自ら行うことが原則です。いつも以上に周りの人に配慮し、飼育スペースや排泄物の処理など決められたルールを必ず守りましょう。飼い主同士で助け合い飼育エリアの確保や清掃を行えるとよいでしょう。また、ペット（特に猫）は1日のほとんどをケージの中で過ごすことが多くなるため、ケージを布で覆って目隠しをしたり、段ボールで簡易ハウスを作るなど、飼育環境を整えて、ストレスを減らす工夫をしましょう。



自宅で生活する

自宅が安全なら、住み慣れた自宅にいる方がペットも安心です。ただし救援物資と情報は避難所に集まるので、必要に応じて取りに行くようにしましょう。人は無理でもペットが自宅で生活できる状況なら、避難所から世話に通う方法もあります。二次災害の危険があるときは、同行避難をしましょう。

車の中で生活する

周りに気を使わず過ごせませんが、狭い空間では、エコノミークラス症候群にならないよう定期的には車外に出て動いたり、水分をこまめに取りましょう。また、車内温度は思ったよりも上昇するため、人もペットも熱中症の危険があります。温度や湿度を確認するなど注意が必要です。

施設に預ける

避難所に入れない場合や、飼い主の事情、ペットの健康状態などにより、自治体の収容施設、動物病院、動物保護団体などで預かってもらう場合があります。家の再建まで長期に預けるだけでなく、家の片づけや仕事のために数日または数時間預けることもあります。預ける前に条件や期間、費用等について必ず確認し、誓約書なども交わしておきましょう。

平成28年4月に発生した熊本地震で避難生活をした飼い主の方から、様々なご意見をいただきました。

ペット飼い主からの声



避難所における獣医師による問診

ふんの放置を注意される飼い主が多く、トラブルになった

ペットの飼い主同士で「飼い主の会」を作って協力し合えた

テント内で過ごす時には、脱水症状に気がついた

ペットがいることでコミュニケーションのきっかけになった

病気のペットの療法食を備えていなかったのが困った

屋内で運動させられる場所があればよかった

飼い犬がおとなしい性格だったため、気兼ねなく過ごせた

余震などで犬が吠え、遠慮して自宅に帰る人もいた

獣医師の巡回があったので相談もできとても助かった

車中泊していたペットがストレスで吠えるようになった

日頃からトイレのしつけをしていたのでトラブルはなかった

支援物資の慣れないフードで下痢や嘔吐がみられた



避難所のペット飼育専用施設の例